

安心・安全 ソフト流通フレームワーク

2014年1月

(株)IT企画 才所敏明

toshiaki.saisho@advanced-it.co.jp

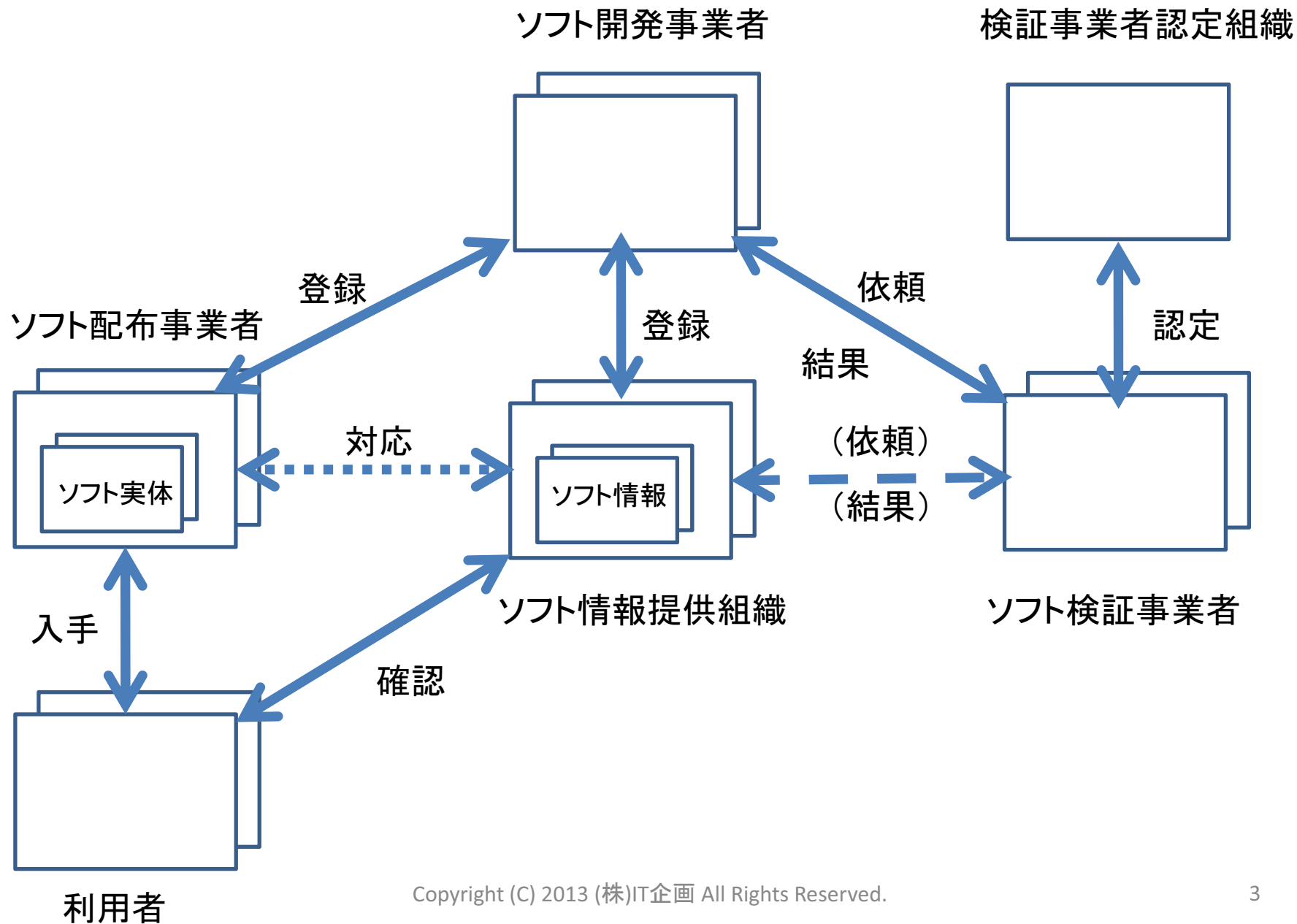
狙い

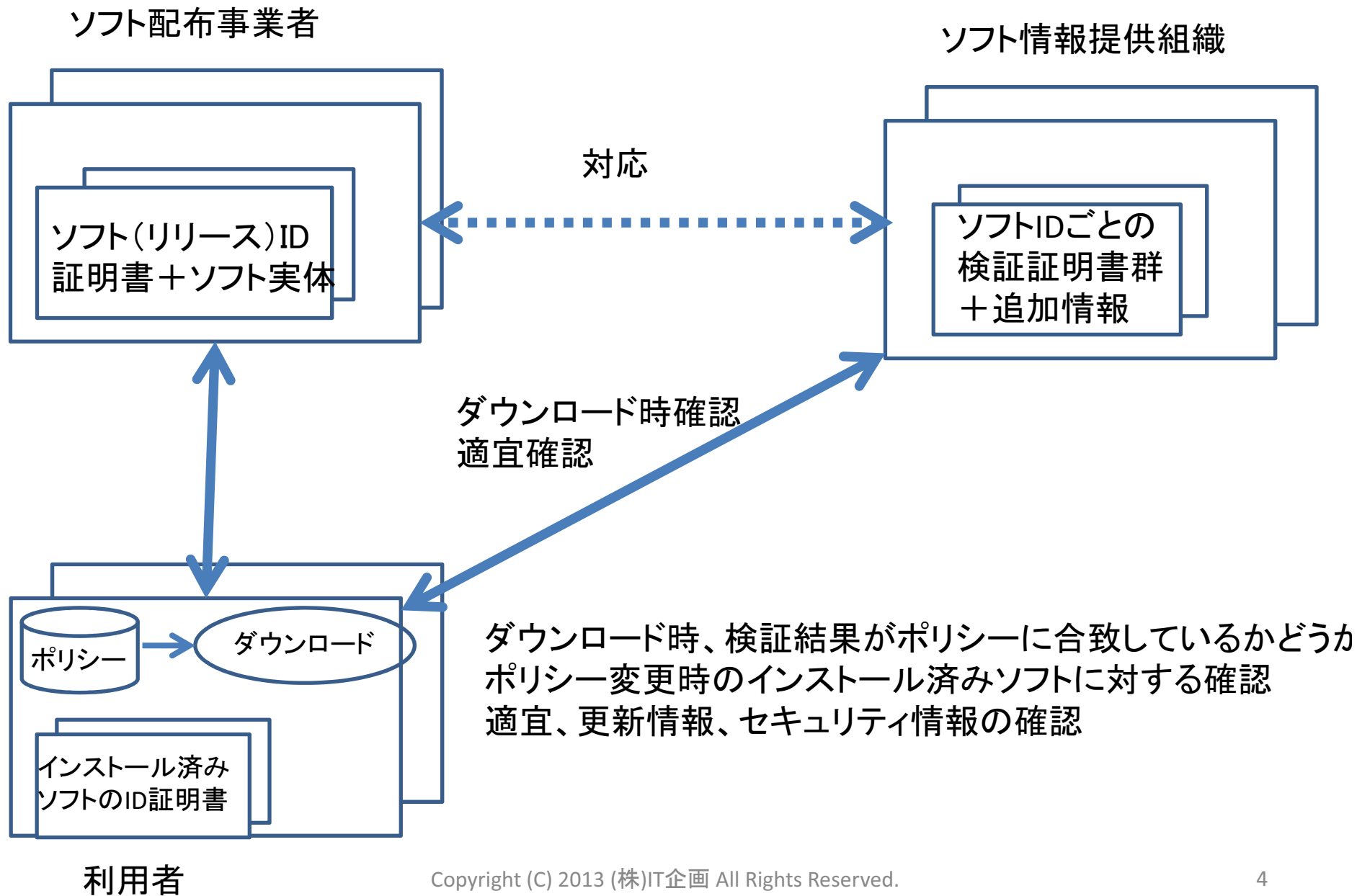
- 流通するソフトには様々のリスクが存在
- 流通ソフトのリスクの有無の判断は、
一般に利用者には困難
- 開発元の自己主張だけでは不安



- 信頼できる機関の検証による、
安全性の保証、が欲しい

安心・安全ソフト流通フレームワーク





安全性の検証可能性

- (1) ウイルスに感染していないこと
- (2) システム領域への不適切なアクセスが無いこと
- (3) 悪意の第三者に利用される脆弱性が無いこと
- (4) プライバシー情報への不適切なアクセスが無いこと

利用者環境への実装可能性

(1) (ダウンロード時、検証状況・結果に応じ、制御・問合せ)

課題: クライアントデバイスへの

多様なソフト配布/更新メカニズムとの連携

(2) (起動時、その時点の検証状況・結果に応じ、制御・問合せ)

課題: アプリの多様な実装・実行方式との共存

(3) (実行中、不適切なシステム領域/プライバシー情報

へのアクセスがあった時点で、制御・問合せ)

課題: 多様な実装方式・実行環境のアプリの

実行中の挙動監視メカニズムの実現方式

運用面の実現可能性

(1) 主要機能の担い手

市場原理で立ち上げるのは困難
まずは国の主導で立ち上げ、

順次、民への移行を進めるのが良いか

(2) ソフト開発事業者の負担軽減

段階的追加検証の可能性

成功報酬型の費用負担の可能性

(3) ソフト検証事業者の負担軽減

自動検証の可能性/技術開発

国主導の研究開発活動との連携

将来の発展可能性

- (1) 運用の持続性
民間のビジネスとして自立させることが必要
- (2) 検証項目の発展性
国主導の研究・技術開発
段階的な検証項目追加への対応可能性
- (3) 新規サービス(ビジネス)の可能性
仕様、プロトコル、データ形式のオープン化
構築するフレームワークのプラットフォーム化
- (4) 国際的な展開の可能性
国際標準化
相互運用性

安心・安全ソフト流通フレームワークの 実現に向けたアプローチ

- 技術的対策による自動化が理想だが、利用者向けリテラシー教育による対策との併用が必須
- 最初から高い目標を狙わず、早期の市場投入を狙うべき
- 研究開発、実証実験、実用化初期フェーズのインセンティブなどでは、国主導が不可欠
- 総務省のSPI(Ⅰ)、SPI(Ⅱ)の他、MCF、JOGA、TCAなどの団体のガイドラインを参考に検証すべき項目を検討要